JOA トレイル O 委員会

藤島由宇

■2006 年世界トレイルO選手権報告■

去る2006年7月にフィンランドにて開催された第 3 回世界トレイルO選手権大会（WTOC2006）の成績をお知らせいたします。

●オープンクラス総合
1位　Martin Fredholm（スウェーデン）
29点　25秒
2位　Stig Gerdtman（スウェーデン）
29点　46秒
3位　Per Midthaugen （ノルウェー）
29点　148.5秒
9位　杉本光正　27点　105秒
11位　鈴木規弘　26点　34.5秒
14位　山口尚宏　24点　130.5秒

●パラリンピック・クラス個人
1位　Dave Gittus（イギリス）
13点　87秒
5位　木島英登　11点　36秒
22位　蓮本勇喜　5点　130秒

●パラリンピック・チームトロフィー
1位　スウェーデン
7位　日本（木島・蓮本）

オープンクラスの一日目の成績ができすぎでしたので落胆する声が多く聞かれましたが、冷静に見れば 3 人ともに15位以内に入っており十分に評価できる結果であったのではないかと思います。昨年・一昨年以上に日本チームの存在感を世界に示すことができました。

何よりも、世界の中で自分達の技術が十分に通用することを確認することができ、上位に入るためには何が足りないのか実感できたことが大きな収穫です。
来年以降も、上位進出を目指してチーム作りをしていきたいと思います。ご支援ありがとうございました。
（杉本光正選手）

■2007 年世界トレイルO選手権　日本代表選考方法について■

2007年8月にウクライナにて開催される第4回世界トレイルO選手権大会（WTOC2007）の日本代表は、下記の方法で選考を行いますのでお知らせいたします。今回は指定大会にポイント制度を導入し選考をより客観的に、わかりやすくします。また指定大会の運営者が選考上不利にならない様にします。

●2006 年度全日本選手権大会（2006JTOC。2007年5月20日、長崎県大村市）の優勝者を代表選手とする。
●当該年度指定大会（2006 年 9 月?2007年4月1日）の成績に基づいて選考を行い、上位2名を代表選手とする。

【詳細】
① 選考委員は、トレイルO委員会委員で、代表選手になる意志の無い者と、WTOC2007の代表監督予定者とする。
② 当該年度指定大会の成績に基づいて、2007年4月初旬までに、代表選手2名及び補欠2名を決定する。
③ 指定大会上位10名に、1位11点、2位9点、3位8点? 10位1点のポイントを与え、成績の良かった 2 大会のポイントの合計で選考を行う。但し、指定大会の運営者で他の指定大会の参加が 1 回の者は、そのポイントを 2 倍したものを獲得したポイントとする。
④ 代表選手になる意志のある者で、③の上位 2 名を代表選手とする。また次点 1 名を第 1 補欠とし、選考委員会の推薦する者 1 名を第 2 補欠とする。
⑤ 2006年度JTOCの優勝者を代表選手とする。
⑥ ⑤で選考された者が代表選手になる意志が無い場合、および④で代表選手に選考された者と重複する場合は、第 1 補欠を繰り上げて代表選手とする。
⑦ 代表選手が決定後に辞退した場合は、補欠が繰り上がる。
⑧ パラリンピック・クラスについては、2006JTOCの優勝者を代表選手とし、他の 2 名については選考方法を別途定める。

■第 3 回全日本選手権　E クラス出場資格について■

本誌2006年度4月号に掲載しました上記項目について、追加・変更事項がありますのでお知らせいたします。指定大会については、2007年3月31日?4月1日に開催予定の京葉OLC30周年記念大会が第3回JTOCのための指定大会に予定されているため、これまで平成18年度内（? 2007年3月31日）としていたものを2007年4月1日に変更します。

●第 2 回全日本トレイルO選手権大会において、E クラス上位 20 位以内、A クラス上位 3 位以内の成績をおさめた者。
●第 2 回全日本トレイルO選手権大会後から2007年4月1日の指定大会において既得権者を含める上位5名以内の成績をおさめた者。
●パラリンピック・クラス、指定大会運営者、トレイルO普及員等で過去の参加実績及び成績等を考慮し、トレイルO委員会で適格と認めた者。
●選手権クラスについては当日参加を認めない。

（藤島由宇）